

モザンビークの観光資源：モザンビーク島（世界遺産）

平成21年5月
在モザンビーク日本国大使館

モザンビーク島概略

モザンビーク島はモザンビーク共和国北部に位置し、ポルトガル植民地時代はモザンビークの中心的都市として機能していました。1498年にポルトガル人航海士ヴァスコ・ダ・ガマが到達する以前から、アラブ商人等が頻りに往来していたことから当時から交通の要衝であったことが窺われます。島内には16世紀に入植したポルトガル人の手によって建造された要塞、聖堂、宮殿等の建造物が遺っています。残存する建造物の中でも、島の北東部に位置し、1558年から1620年にかけて建造されたサン・セバスチャン砦（高さ12m、幅780m）は、サブ・サハラ・アフリカの植民地時代の建造物として重要な価値を有しています。モザンビーク島は1991年にユネスコの世界文化遺産に登録されました。

日本との関わり

九州のキリシタン大名が派遣した天正遣欧少年使節の4人がヨーロッパからの帰路、1586年9月に喜望峯からモザンビーク島に着き、ここで船を乗り換え、風向きが変わるのを待って6ヶ月間滞在しました。彼らは1587年2月にゴアに向け出発し、1590年に帰国しています。また、宣教師フランシスコ・ザビエルも1541～1542年、日本への道中、モザンビーク島に6ヶ月間滞在しました。彼が毎日祈りを捧げていた石のある場所には、現在ザビエル礼拝堂が建てられています。

サン・セバスチャン砦は石灰岩と木製の梁によって造られ、窓や扉には美しい装飾が施されていますが、植生によって大きな被害を受けており、劣化の危機に晒されています。これに対し日本政府はユネスコ信託基金を通じ、2004年より同砦の修復事業（予算総額：1,108,078米ドル）に協力しており、2009年2月には日本協力部分の修復が完結し、瀬川駐モザンビーク大使出席のもとモザンビーク政府への引渡式が行われました。



日本が修復事業で協力するサン・セバスチャン砦



モザンビーク島周辺には透明度の高い海が広がる

[渡航情報](#)